

抑止力は戦争への道

政府は、「2022年版防衛白書」を7月22日に発表しました。これは12月に新たに策定される「国家安全保障戦略」「防衛大綱」「中期防衛力整備計画」の基礎となる文章です。中国やロシアへの脅威を煽り、大軍拡の必要性を主張しています。アメリカの中国敵視政策に同調し、白書別冊で、「平和を生む抑止力」と題した特集を組んでいます。私たちは「抑止力＝軍事力では平和はつくりえない」と主張してきました。特集では南西諸島への自衛隊配備を示した大きな地図が示され、「防衛力の強化」の必要性が強調されています。9条があるにもかかわらず、ここまで来ました。これを前提に、今回の展示のポイントは以下です。

- ①米軍の作戦計画も自衛隊の作戦計画も南西諸島に住む住民の生命も生活を無視せずには実行できません。77年前の地上戦の記憶は「日本は我々をまた捨て石にする気か」と私たちに突き付けています。
- ②九州の基地群が南西諸島の後方支援地域となり、同時に司令部となります。これは南西諸島だけではなく、九州も戦場になるということを示しています。
- ③戦前の「帝都東京」を守るための捨て石作戦計画です。
- ④米軍から見れば、島々がそれぞれ不沈空母として位置付けられ、日米の相互運用性により、米軍基地・自衛隊基地の相互利用の強化・一体化が追及されています。
- ⑤対中国への米軍中距離核ミサイル配備計画が強行されようとしています。「核共有」どころか、破滅的日中関係が生まれてしまいます。

第1列島線における日米軍事基地配置図

